

## 黒河(くろこ)の会便り 第 16 号

### ◆紫雲山 定福寺 界隈

古刹定福寺を起点とする黒河道（大和口）は空海が高野山を開創して以来 橋本から高野山を最短距離で結ぶ道として開かれた古道であり、現在 世界遺産への追加登録を目指して申請中です。

ところで“賢堂”という地名の由来は何だろう？

南北朝時代（1320）相賀南荘のうち「賢戸」「樞古戸」の名がみえる。「かしこ」はかしこまる、に通じる言葉かもしれない。

とするならば、定福寺より南を仰ぐと、左手に「念仏尾」、正面が「宮谷川」と「宮谷池」、「堂の尾」、西側に「庵山」「妙見の杜」「妙見谷」と連なる地名は想像するだけでも神秘的で畏れ多い。

奈良時代に官道として利用された南海道（大和街道）は真土、隅田、相賀、官生符の荘園を繋いで紀ノ川北岸を通るのに対し、中将姫の悲話で語られる「糸の細道」は裏道として紀ノ川南岸を通り定福寺で黒河道と交わり有田市の雲雀山得生寺へと続いている。



定副寺は神仏習合の形を残しており、本堂に秘仏の本尊、阿弥陀如来坐像（和歌山県指定文化財）をお祀りし、境内には八幡宮が祀られている。

庫裏（文化庁登録有形文化財）の床には一幅の南無八幡大菩薩の軸が祀られていて、その上座の床は厚い一枚板の「押板床」で出来ている。この床構えは、武家や大寺院など限られた建物に見られることから、この寺の格式の高さが察せられる。また、修正会、堂座講など神仏習合の祀りごとが、今も続いている、この寺は賢堂村の生活・文化・信仰の中心であったことを伺わせる。

### ◆ 九重石塔（市文指定文化財）

定福寺境内の黒河道沿いに砂岩製の石塔がある。基礎部分には「弘安八歴二月願主黄善」の銘がある。弘安八歴は「町石道」が木製の卒塔婆から石の卒塔婆への建て替えが完成した年でもあります。

学文路村史によれば、塔の下には石棺が埋められているといわれ、「一村大飢饉の際に非ざれば発掘すべからず」と記されている。

定副寺は信仰の寺社としてばかりではなく、賢堂地域の村人の心の拠りどころでもあったことが察せられる。



←黒河道の復活と応援を俳句にして寄せていただきました。

ゆく風も  
中門くぐり 花を乗せ  
全日本伝統俳句協会（ホトトギス）  
会員 岩橋 蘇風（哲也）